

「ご搭乗いただきありがとうございます」

2019年3月16日（土）B1. LEAGUE 第28節 千葉ジェッツ VS
シーホース三河 15:05 TIPOFF（試合開始） 千葉ポートアリーナ
観衆6443名



↑スポンサー企業の横断幕設置

↑入場ゲート

※今回の活動レポートは誤って派遣スタッフの業務と一緒にになってしまい、途中気が付きそのまま最後までお手伝いさせていただくことになりました。あらかじめご承知下さい

1、「斬新で実用的なユニフォーム」

JR千葉駅から、まだ春浅く花粉が飛び交う中を20分ほど歩くと試合会場の千葉ポートアリーナに到着します。千葉ジェッツは船橋アリーナで今シーズン27試合、準ホームの千葉ポートアリーナで今日を含め3試合が行われます。朝9時に集合ですが、その10分前に派遣スタッフの皆さんの集合があり、ボランティアの点呼後、着替えを借りて派遣スタッフの控室に行ってから、派遣スタッフと勘違いされてしまい、最終的に最後まで派遣スタッフの皆さんのお手伝いをさせていただくことになりました。

あらかじめメールいただいたメールにユニフォームのことは明記されてはいましたが、黒色の襟付きカラーシャツに赤いエプロンに着替えました。ほとんどのスポーツボランティアのユニフォームはジャンパーか、Tシャツ、ビブス着用ですが、このユニフォームがとても斬新なだけでなく、エプロンには当日のマニュアルも折り曲げれば、はみ出さずに入り実用的でとても気に入りました。

全体朝礼では、15名前後の社員全員の挨拶もあり「(ジェッツは成田空港からも近く、ジェット機をイメージしたチーム名) ご搭乗ありがとうございます」と挨拶するようにとの話がありました。(座席にも「ファーストクラス」があります)

朝礼が終わると、スポーツイベント運営の委託業者の方から座席の説明を受けました。この方は大学生？のアルバイトの方ですが、とても説明がわかりやすく安心感を与えてく

れました。その後30社程度のスポンサー企業の入った布製の横断幕をひもで結びます。当然ながら、並べる順番は間違えるわけにはいかず、また開門までの時間も長くはありませんのでテキパキとこなしておきます。

2、1カ所のみゲートは終日混雑

入場ゲートは1カ所のみとなっていて、11時の先行入場でアリーナには多くのお客様が列を作っています。私はプラカードを持ちながら1階席に向かう方への誘導を行ないました。約4時間も前に開門になるのは、11時半から前座のミニバスケットがあり、また14時すぎからイベントがあるからです。そのためコンコースには人が絶えず、プラカードを通行の妨げにならないようにしました。

15時10分のテイクオフ（試合開始）後は、扉の前でのお客様対応ですが、立ち見で観戦されるお客様はいらっしゃらなかったもので、全くといっていいほど対応することはありませんでした。ハーフタイムでは照明を暗くしてショーがあるため、開放したままの扉を一時的に閉めました。

17時過ぎに、試合終了しスタンドのゴミ回収を行ない、18時前にユニフォームを返却して流れ解散となりました。

3、試合運営を支える方たち

今回は結果的に派遣スタッフの一日体験になってしまいましたが、ボランティアとは違った側面から見る事ができて、おおいに勉強になりました。アリーナ内での業務の運営をM社に委託し、M社とさらに別の派遣会社のスタッフの方がひとつのポジションの業務をこなしていましたが、意思疎通に困ることは特になかったと思います。普段はJリーグでの活動が多いですが、あれだけ多くのスタッフはどのようにして確保するのか、売店や清掃のスタッフはどのような方がおこなっているのかなど関心を持つようになりました。今日の試合だけでも数百人の方が試合運営を支えていたと思います。

今回はボランティアの方と接することが全くありませんでしたが、ボランティアの方はグラウンドスタッフと呼ばれ1試合あたり10～15名が活動、券面チェックやもぎりが中心とのことでした。

この日の試合で観客動員40万人を突破し、B1リーグのチャンピオンシップホーム開催が決定している千葉ジェッツはBリーグを牽引しているといっているでしょう。他のBリーグクラブにもボランティア制度がどんどん増えているようです。そしてBリーグはJリーグを手本にしてきたのが発展の原因かもしれないと思い、春風と寒風の混じった千葉をあとにいたしました。千葉ジェッツの運営担当の方、M社の皆さんありがとうございました。今度はまた他のBリーグクラブにもお伺いしたいと思います。